



はらじゅくかわら版

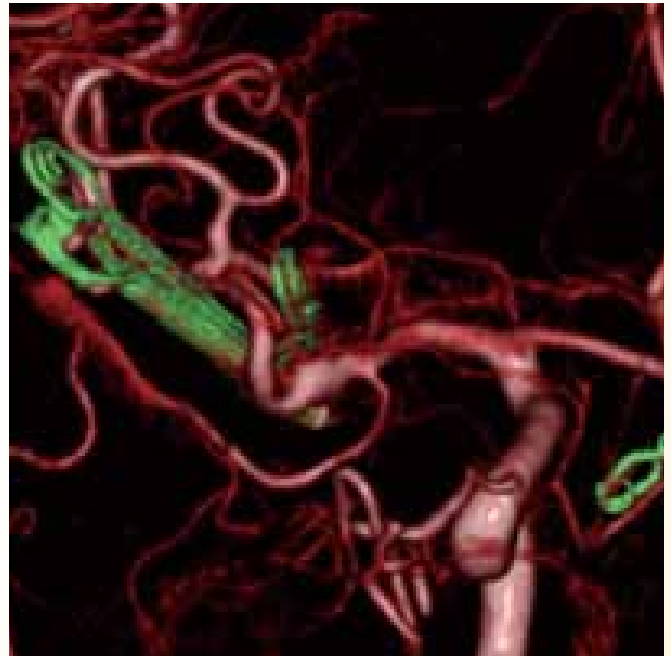
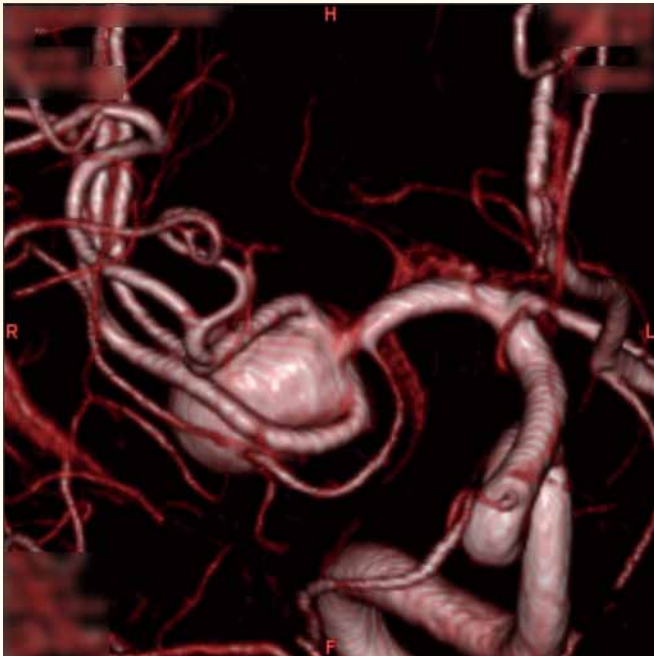
独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



脳動脈瘤術前・術後の脳血管撮影

記事「医師が語る疾患」は2ページに掲載。

第46号 目次

特報

リニューアルした救急外来・・・・・・・・・・1

特集 -医師が語る疾患-

第5回 くも膜下出血と脳動脈瘤

脳神経外科編 脳神経外科部長 市川 輝夫

行事紹介

栄消防署集団救急事故対応訓練にYMAT派遣・・・3

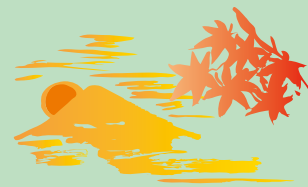
正しいがん情報でがんを知る「市民公開医療講座」4

連載 職員リレー紹介

第5回 栄養サポートチーム (NST)・・・・・・5

病診連携施設紹介・・・・・・・・・・6

担当医表／編集後記・・・・・・・・・・7



発行 月：平成26年10月

発行 行：独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター 広報委員会

発行責任者：工藤 一大

住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2

電 話：045-851-2621

FAX : 045-851-3902

URL : <http://www.yokohama-mc.jp>



●当院携帯サイトはこちらから

特 報

リニューアルした救急外来

救急部長・救命救急センター長 古谷 良輔

当院の救急外来は、平成22年4月の全館新装および救命救急センターの再整備以降、救急車専用の搬入口と重症症例を同時に3名診察可能な救急初療室1室、点滴や処置が必要な方を2-3名診察処置可能な救急処置室1室、そして主に小児や救急外来に直接来院した方用の診察用個室6室で運用を開始しました。

しかし、救急外来を直接受診される方が増加するにつれ、また入院が必要となる「中等症」以上の救急搬送例が年々増加するにつれ、たとえば救急外来の出入口がわかりにくく来院者が非常に迷いやすいこと、救急受付がなく、また患者待合スペースに死角が多いこと、救急処置室の入口が狭く、また変形し中途半端な広さであるため救急隊のストレッチャー進入やストレッチャー間の移動も苦勞すること、診察用個室では患者動線とスタッフ動線が混在し非常に動きづらいことなど、「機能的で使い勝手が良い」はずの救急外来に構造上の様々な問題があることが判明しました。救急外来で発生するインシデントの原因を分析すると、救急外来の構造がその原因のひとつとなっている可能性もあり、今後運用の工夫だけでは限界があると思われたため、本年、救急外来のリニューアルを施工しました。

今回のポイントは以下の通りとなっています。

①救急外来出入口及び待合エリア：時間外受付側に救急外来出入口を設置しました。また、患者待合室には専用のトリアーゼナスを配置し、重症度・緊急度に応じて診察が始まるように適切にトリアーゼされる仕組みにしました。

なお、待合室は状況に応じて診察室に転用可能な設計になっております。

②救急車入口及び風除室：救急車搬入口をネームカードによるセキュリティ付のものにし、風除室に大型換気扇付専用シャワー室を設置しストレッチャー進入動線と分離しました。

③救急処置室：旧休憩室、待合エリアを含めた広いオープンスペース化し、无影灯も2灯設置し外科的小処置も可能なスペースとなっております。ストレッチャー患者は5-6人収容可能となったため、Holding areaとしての活用が可能になったのみならず、初療室と併せて多数傷病者への対応も可能になりました。

④診察室：常設診察室は5室で、小児用1室は陰圧換気可能となっております。

2室に无影灯を常設しており、また1室はインフルエンザ等の流行期には専用待合室を備えた発熱外来に転用可能です。診察室のバックヤードに職員のワーキングスペースと動線を配置し、ストレッチャーの移動も可能にしましたので、職員と患者の動線のクロスがなく、双方にとって動きやすい空間となっております。



特集 — 医師が語る疾患 —

第5回 くも膜下出血と脳動脈瘤 脳神経外科編

脳神経外科部長 市川 輝夫



脳卒中は脳血管が閉塞して起こる脳梗塞が多く、次いで脳出血、くも膜下出血の順です。くも膜下出血は脳卒中の5-10%の頻度ですが、3人に一人が死亡し、3人に一人に後遺症が残る恐ろしい病気です。また生活習慣病のない比較的若い人にも起こります。原因のほとんどが脳底部付近の脳表（くも膜下腔）をはしる太い動脈の分岐部にできたコブ（脳動脈瘤）が破裂して起こります。症状は突然の激しい頭痛、意識障害。はなはだしい場合は突然死になります。一命をとりとめてもそのままではほとんどの患者さんに2度目3度目の破裂が起き、命を落とします。したがって、できるだけ早期に再破裂予防の手術が必要です。

手術には開頭術（クリッピング）と血管内手術（コイルリング）の2つの方法があります。

開頭術は手術用顕微鏡下に直接動脈瘤を見てその根元にクリップをかける方法です。血管内手術は太ももの付け根の動脈からカテーテルという細い管を脳動脈瘤近くまで挿入し、そこからコイルを動脈瘤内に詰める方法です。どちらの方法にも一長一短がありますが、一般的には現時点では安全性確実性とも開頭術のほうが優れていると思っております。

近年MRIの普及に伴い破裂していない脳動脈瘤が偶然見つかる機会が増えました。破裂すれば恐ろしいくも膜下出血になるわけですが、すべてに予防的手術が必要なわけではありません。

小さな動脈瘤は破裂の危険性が非常に低いからです。年間破裂率は3mmの動脈瘤で0.3%、5mmの動脈瘤で0.5%、7mmで1.5%、10mmで4%、25mmで30%くらいです。手術のリスクもありますので、一般的には5-7mm以上の動脈瘤で余命10-15年以上のかたが手術の適応になります。しかし、比較的小さなものでも動脈瘤ができた部位や動脈瘤の形によっては破裂の危険性の高いものもあります。他院で脳動脈瘤を指摘されたかたは当院脳神経外科外来を受診して相談してください。当院の脳動脈瘤開頭術の手術件数は一昨年146件（破裂27件、未破裂119件）で、神奈川県で一番多く、全国でも8位でした。

（週刊朝日MOOK手術数でわかるいい病院2014より）



行事紹介

栄消防署集団救急事故対応訓練にYMAT隊を派遣

庶務班長 須藤 治幸

昨今社会問題になっている薬物吸引を原因とした交通災害に対応するため、傷病者が多数発生した集団救急事故を想定した合同訓練が、消防機関、警察機関、交通会社など各関係機関の相互の連携を確認・協力体制を確立するとともに、迅速・的確な対応を図り被害を最小限にとどめることを目的に8月21日に横浜市立本郷中学校グラウンドで実施されました。

危険ドラッグを吸引後に乗用車を運転した者が意識を失い、バス停でバス待ちをしていた市民の列に突っ込み、その後走行してきたバスと正面衝突し負傷者が多数発生したとの訓練想定で、当院から医師3名と看護師2名で構成した横浜医療センターYMATチームが現場に急行し負傷者への医療活動を行う役目での派遣でした。

訓練は指揮本部からの情報収集と活動方針についての協議、被災者の重症度に応じて初期治療を行い、診察と適切な医療機関への搬送指示をして訓練は終了しました。

訓練後には消防機関と検討会を行い、反省点を確認し大変有意義な1日となりました。



行事紹介

正しいがん情報でがんを知る「市民公開医療講座」 地域中核連携室長 奥津 正仁

○がんに関する市民公開講座

平成26年8月28日、市民公開医療講座を戸塚区役所3階多目的スペースで開催しました。今回のテーマは、「がんの診断と集学的治療 ～膵がんを例に～」でした。

講師は、当院の関戸仁統括診療部長が務め、当日は86名の方にご参加いただきましたが、「大変わかりやすかった」、「大変参考になりました」とご好評をいただきました。その講座の一部をご紹介します。



○がんの現状、診断と治療

日本のがんの現状として、1年間にがんにかかった人は、2010年の推計値で80万人を超えたことが新聞報道されました。そのなかで、膵がんの罹患率は、人口10万人に対して20人台と他のがんに比べて高くはありませんが、講座では、難しいとされる膵がんの手術の内容や当院の積極的な取組みをイラストや動画を交えてわかりやすく解説しました。

膵がんの診療上特に重要なことは、①早期診断と早期治療、②早期発見(検診と生活習慣の指導)、③集学的治療です。集学的治療は、手術、放射線治療、化学療法などを効果的に組み合わせることにより、がん治療の成績を向上させようとするもので、当院でもその提供体制を整えています。

○がんを防ぐための12か条

がんは誰でもかかる可能性があります。科学的根拠に基づいたがん予防法も示されています。

講座の最後には、がん研究振興財団が提案するがんの予防12か条をご紹介します。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1条 たばこは吸わない | 7条 適度に運動 |
| 2条 他人のたばこの煙をできるだけ避ける | 8条 適切な体重維持 |
| 3条 お酒はほどほどに | 9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療 |
| 4条 バランスのとれた食生活を | 10条 定期的ながん検診を |
| 5条 塩辛い食品は控えめに | 11条 身体の異常に気付いたら、すぐに受診を |
| 6条 野菜や果物は豊富に | 12条 正しいがん情報でがんを知ることから |

○がん診療連携指定病院

当院は、神奈川県からがん診療連携指定病院に指定され、専門的ながん診療機能を充実するとともに、安心かつ適切ながん医療を提供する役割を担っています。その一環として、身体的、精神心理的苦痛を緩和する緩和ケアを提供する体制も整えています。以前、緩和ケアをテーマに公開講座を開催する前に、「緩和ケアはがん末期の話だから私には関係ない?」とお問合せをいただきました。しかし、緩和ケアはがんと診断された時から提供が始まることをご説明し、ご参加をお誘いしました。

12条の「正しいがん情報でがんを知る」ために、今後も公開講座を開催してまいります。また、院内には「がん相談支援センター」を設置し、相談員を配置するとともにがんの種類ごとのパンフレットなどをそろえて情報提供も行っています。ぜひご活用下さい。

第5回 栄養サポートチーム (NST)

外科部長 松田 悟郎

こんにちは。栄養サポートチーム、NST (Nutritional Support Team) です。

NSTとは、栄養サポートを医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、言語聴覚士、臨床検査技師などの多職種で院内横断的に実践するチームのことです。

当院NSTは2004年に発足し、日本静脈経腸栄養学会のNST稼働認定を受けています。

毎週の活動は、低栄養チームと摂食嚥下チームの2チームに分かれて行っています。

低栄養チームは週1回、栄養管理室でカンファランスを行っています。主治医からNSTへ栄養管理相談があった患者さん、病棟看護師からSGAシート(低栄養評価シート)を提出してもらい抽出した低栄養患者さん、褥瘡チームから紹介のあった患者さんについて症例検討を行っています。特に問題のある症例は、カンファ後に病棟回診を行い、主治医・病棟スタッフと協議して、栄養サポートの提案を行っています。「腸を使える時は、腸を使え」をモットーにして、経腸栄養を積極的にお勧めしています。

昨年度の新規介入患者数は163人でした。

摂食嚥下チームは週2回、歯科医師、摂食嚥下認定看護師、管理栄養士で病棟回診を行い、摂食嚥下機能評価、口腔ケア、嚥下リハビリの指導を行っています。また、耳鼻科医師に依頼して嚥下内視鏡検査を行い、嚥下機能を詳細に評価しています。昨年度の介入患者数は122人で、のべ回診件数は783件でした。

病院内スタッフにNST活動の啓蒙をはかるために、NST委員会主催の院内勉強会を年4回実施しています。昨年度のテーマは、1.低栄養について、2.摂食嚥下障害について、3.褥瘡患者の栄養管理について、4.経腸栄養の半固形化、口腔ケア、補助栄養剤の試飲会を合わせた体験型セミナーでした。毎回、参加者にアンケートを行い、次の勉強会のテーマ設定に生かしています。

栄養管理はすべての治療法の基盤であり、適切な栄養管理は患者さんの予後を改善することが分かっています。

栄養管理でお困りの患者さんがいましたら、是非NSTスタッフに気軽に相談して下さい。

今後ともよろしくお願い致します。



低栄養チーム



摂食・嚥下チーム

病診連携施設紹介

医療法人 吉原整形外科

私は戸塚生まれ、地元の学校に通い必然的に？最終と思われる職場も戸塚となり、汲沢町に平成14年3月に開業して約12年経ちました。よく患者さんに先生の医院は天井も吹き抜けで医院らしくないと言われます。勤務医の時に感じたのですが、患者さん特に初診の患者さんは、緊張されていて自分の症状を上手く説明できない方が多くいらっしゃり、来院時に少しでもリラックスできるようにと山小屋風のクリニックにいたしました。最近では手術が主体であった勤務医生活から診察が主体の開業医生活にも慣れ投薬、リハビリテーション、注射等の保存療法や小外科手術を駆使し、受診してくれた患者さんの症状改善を目指し思考錯誤しながら診療する毎日です。



向かって左から4人目が吉原院長

開業して10年ぐらいの時、狭い診療所で一日中診療しているため動く距離も必然的に限られ、最近運動不足だと思っていたところに大学病院時代の医局の先輩にゴルフに誘われ数年ぶりにプレーしたのですが、脚がけいれんを起こして途中リタイアという醜態をさらしました。腰痛や膝痛で来院される患者さんに筋力強化などの運動療法の必要性を説明しておきながら自らが運動不足ということを大いに反省し、犬の散歩や医師会のゴルフ部に入部させていただき外で太陽を浴びながら運動するようになってから（ゴルフの腕は全くというほど上達しませんが）、最近は風邪にかかることも少なくなり万全の体調で診療を続けることができいております。

開院12年経ち少しでも患者さんのお役に立てるよう古くなったりリハビリテーションの機器を入れ替え、より診断性能に優れた超音波診断装置を導入、レントゲン撮影装置も従来のX線装置よりX線の被ばく量が少なく、より鮮明な画像を撮影できるフラットパネルといたしました。

現代医療において一人の医者があらゆる疾患に対応、治療することは困難であり、開業してから当院が大きなトラブルもなく過ごせたのは一重に地域の開業医の先生方や通常診療時間帯のみならず時間外でも迅速に対応していただける医療センターの先生方のおかげだと感謝しております。

今後ともよろしく願いいたします。



医療法人 吉原整形外科

〒 245-0062
神奈川県横浜市戸塚区汲沢町471-3
TEL : 045-871-8488

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	●	●	●	●	●	※	/
午後 14:30～18:30	●	●	●	●	●	/	/

休診日 日曜・祝日

※土曜日の診療時間は9:00～12:00です。

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
外来受付 A	小児科	鈴木 陽二 内田 理 曾澤 緑	福山 鏡子 山崎 博子 西山 邦幸	小林 慈典 大杉 康司 松丸 佳世	鈴木 陽二 矢竹 曜子 中山 彰	塩谷 裕美 宮沢 啓貴	
	心臓血管外科 形成外科	益子原 幸宏	休診日(手術日) 村下 一晃	東嶺 雅文 休診日(手術日) 村下 一晃	※東嶺 雅文 休診日(手術日) 村下 一晃	東嶺 雅文 村下 一晃	※木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)
	整形外科	瀧上 秀威 伊藤 りえ 仲 拓磨	日塔 寛昇 石ヶ坪 誠 日野 勝利	瀧上 秀威 高 倫浩 仲 拓磨	日塔 寛昇 上條 晃 伊藤 りえ	石ヶ坪 誠 上條 晃 高 倫浩	★: 予約患者のみ。
		★瀧上 秀威	★日塔 寛昇		★日塔 寛昇		
外来受付 B	総合内科外来	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	
	糖尿病内分分泌内科	重松 絵理奈 小松 裕美子	重松 絵理奈	宇治原 誠 藤井 梨絵	宇治原 誠	小松 裕美子	◎: Aブロックで診察。午前のみ。 ■: 午後の予約のみ ▼: Aブロックで診察。 初診には紹介状が必要。
	神経内科	森原 啓介	山崎 舞子 園井 美紗子	上木 英人	岡本 光生 高橋 洋子	高橋 竜哉	
	腎臓内科	松下 啓	中野 雅友希	小宮 麻里子	松下 啓	須藤 成人	
	呼吸器内科	後藤 秀人 藤原 基史	▼藤原 基史	小嶋 亮太 須藤 成人	休診日(検査日) 松島 昭三(初診)	須藤 成人 小嶋 亮太	
	消化器内科	交代医師(初診) 塩原 康正	田村 優子(初診) 鈴木 大輔	小松 達司(初診) 松島 昭三	野登 はるか 小松 達司	交代医師(初診) 小松 達司	
	循環器内科	森 文章 塚本 圭	岩出 和徳 細代 洋一(午前)	田中 直秀 森 文章	田中 直秀(午前)	岩出 和徳 清水 邦彦	
		初診: 交代(②)	初診: 田中 直秀 宮城 理美子	初診: 岩出 和徳 休診日(検査日)	初診: 岩出 和徳 宮城 理美子	初診: 森 文章 出口 治子	②: 第1・2週 田中 直秀、第3・4・5週 岩出 和徳 ※火曜日は予約患者のみ(新患受付無し)
	リウマチ科	出口 治子	※宮城 理美子 出口 治子	休診日(検査日)	宮城 理美子 出口 治子	出口 治子 宮城 理美子	
	外科・消化器外科	清水 哲也 小笠原 康夫 山本 悠史	関戸 仁 松田 悟郎 齊藤 修治 太田 郁子	松田 悟郎 平谷 清吾 和田 朋子	関戸 仁 松田 悟郎 齊藤 修治 清水 哲也 和田 朋子	休診日(手術日)	
		呼吸器外科	五来 厚生 野間 大督	交代医師③	交代医師④	休診日(手術日)	坂本 和裕 野間 大督 藤津 和彦 市川 輝夫
	脳神経外科	休診日(手術日)	手術日	◇脳ドック	休診日(手術日)		
麻酔科(ペイン・緩和)	交代医師		田澤 利治	小川 賢一			
外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	○佐々木 祐幸 手術日	○: 予約外の診察には紹介状が必要です。
	眼科	木村 正彦 熊代 俊	養 桂子 熊代 俊	木村 正彦 熊代 俊	木村 正彦 養 桂子	休診日(手術日)	初診には紹介状が必要
	泌尿器科	奥野 紀彦 大山 哲平	奥野 紀彦 若田部 陽司	休診日(手術日)	奥野 紀彦 若田部 陽司	高田 治子 大山 哲平	水曜日は新患(要紹介状)のみとなります。 水曜日午後は手術の為、入院患者の依頼はお断りしています。
	皮膚科	宮田 隆子 船津 栄	宮田 隆子 船津 栄	宮田 隆子 手術日	宮田 隆子 船津 栄	船津 栄	
外来受付 D	心療内科	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	
	精神科	鈴木 将裕	大橋 茉莉子 戸代原 素夫	古野 拓	吉田 晴久	土屋 美江 許 博陽	※月～金: 初診の方は9時30分までに受付を済ませてください。(要紹介状、1日1名の予約制) 初診は左記の再診担当医以外の医師が診察します。詳細は精神科外来にお尋ねください。 初診には紹介状が必要。 地域連携室を通して完全予約制
	婦人科	柳尾 梓	奥田 美加 若林 玲南	窪田 興志 奥田 美加	中口 芳恵	柳尾 梓	初診は、火・木曜日8:30~11:00。初診患者は随時受付(紹介状から直接連絡ください)。再診は完全予約制。再診患者は電話をお願いします。 初診: 紹介状又は診療情報提供書を持参してください。 詳細については産科・小児科部長にお問い合わせください。
	産科	太田 幸秀	若林 玲南	奥田 美加	中口 芳恵	柳尾 梓	
専門外来 (予約制)	小児科	アレルギー検査	腎臓外来(⑤)	アレルギー(塩谷)	フォローアップ外来(福山)	アレルギー(内田)	⑤: 第1・3週(火)長濱 ⑥: 第1・3・5週(金)本井
		ソナタ(9~4月)(矢竹)	フォローアップ外来(矢竹)	アレルギー(宮地)	1ヵ月健診(交代医師)	神経外来(⑥)	
		感染免疫・アレルギー(小林)	アレルギー(鈴木)	予防接種(交代制) 13:30~14:30	1ヵ月健診(交代医師)	循環器外来(鈴木)	
	内分泌(⑧)	アレルギー(山崎)	循環器外来(鈴木)(月1回)				⑧: 第2・4週(月)内分泌 大杉
	整形外科	骨髄外来(⑨)	手術(⑩)		骨髄外来(⑨)		⑨: 毎週14:00~15:00(地域連携室を通しての完全予約制) ⑩: 毎週15:00~16:00、⑪: 毎週14:30~15:30
		スポーツ整形外科(⑩)			スポーツ整形外科(⑩)		
	神経内科	頭痛外来 摂食・嘔下外来 物忘れ外来					地域連携室を通して完全予約制 ⑨: 第2・4週(頭痛外来)、第1・3・5週(摂食・嘔下外来)
	糖尿病内分分泌内科	糖尿病連携/ス外					
	腎臓内科	腎臓透析外		腎臓透析外	腎臓透析外		
	感染症内科	感染症外					
	看護部			糖尿病看護ケア外 糖尿病フットケア外	糖尿病看護ケア外 糖尿病フットケア外		
	外科	スキンケア外 乳がん検診	スキンケア外				
	耳鼻咽喉科				補聴器外(午後)		
	皮膚科	血管炎外					
	循環器科			パースメカ外	睡眠時無呼吸 症候群外		
	精神科	物忘れ外来 助産師外				物忘れ外来 助産師外	初診には紹介状が必要。地域連携室を通して完全予約制
	産婦人科	母乳外来(午後) ▽母親教室	母乳外来(午後)	▽母親教室	母乳外来(午後)	母乳外来(午後)	
		呼吸器外科					▽: 午後のみ。夫立会検査は第2・4週土曜日、第3週日曜日。 地域連携室を通して完全予約制(第1金曜日のみ) 9:00~11:00 地域連携室を通して完全予約制 ※担当医: 新野 史 完全予約制(1~2名)、診療日は流動的
放射線科	海津 久		向井 佑希	榎多 政治	アスベスト外(坂本)		
病理診断科	※	※	※	※	※		

初診受付: 平日 8:30~10:00
再診(予約外)受付: 平日 8:30~10:00
休診日: 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日
地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月~金 8:30~17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

◆編集後記◆

あっという間に季節は秋になってしまいました。

病院周辺の木々も色づき始め、美しい紅葉が楽しみです。行楽の秋、スポーツの秋、趣味やレジャーに最適な季節です。その反面、寒暖の差が激しく、体調管理が難しい季節でもあります。十分な睡眠、食生活に注意して体調を整えましょう。(S.H)